

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月鳥類調査 速報

●実施状況

平成 31 年 2 月 8 日に鳥類調査を実施した。天候は晴れ～曇りで、気温 7.5～10.1℃、北風、風速 5.0～7.5m/sec であった。調査当日は中潮で、干潮が 13 時 2 分(66cm)、満潮は 18 時 34 分(177cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	10:16-11:25	12:15-13:09	14:05-15:16
天候	晴れ	曇り	曇り
気温(℃)	7.5	10.1	8.8
風向	北	北	北
風速(m/sec)	7.5	6.7	5.0
備考	風が強く、波が高かった。繁殖のため、第六台場の周りではカワウの臭いが漂っていた。	干潟が干出していたが干出範囲はさほど広がらなかった。風がやや強く、波は高めだった。	干潟は広く干出。風がやや強く、波は高めだった。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
数が多かった 鳥類上位 2 種	スズガモ カワウ	ユリカモメ ホシハジロ	スズガモ カンムリカイツブリ
その他の鳥類	マガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、ウミウ、アオサギ、オオバン、イソシギ、カモメ類(ユリカモメ等)、ハクセキレイ	カモ類(コガモ等)、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、イソシギ、カモメ類(セグロカモメ等)、トビ、オオタカ、ハクセキレイ、タヒバリ	ヒドリガモ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、クロツラヘラサギ、シロチドリ、ハマシギ、カモメ類(ユリカモメ等)、ミサゴ、タヒバリ
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 5 種を確認(スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、オオバン、イソシギ)。 ・第六台場において、アオサギの繁殖はまだ確認出来なかった。 ・第六台場でウミウが休息。 ・鳥の島、海浜公園の海上でスズガモ、オオバン等が遊泳。 ・海浜公園砂浜でユリカモメが休息。 ・護岸でハクセキレイが採餌。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 4 種を確認(オオバン、イソシギ、トビ、オオタカ)。 ・カモ類(ホシハジロ、キンクロハジロ、オナガガモ、コガモ等)が護岸で休息、海上で遊泳。 ・オオバンが海上を遊泳。 ・カワウ、アオサギが護岸で休息。 ・カモメ類が干潟で休息。 ・トビ、オオタカが上空飛翔。 ・護岸でイソシギ、タヒバリ、ハクセキレイで採餌。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 7 種を確認(スズガモ、カンムリカイツブリ、コサギ、クロツラヘラサギ、シロチドリ、ハマシギ、ミサゴ)。 ・スズガモ、カンムリカイツブリが海上で遊泳。 ・カワウ、アオサギ、クロツラヘラサギが護岸で休息。 ・シロチドリ、ハマシギが干潟で採餌。 ・カモメ類が干潟で休息。 ・タヒバリはヨシ原付近で鳴き声のみ。

＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場と鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



○出現種(カワウ・アオサギ)

カワウは第六台場で 333 巣、鳥の島で 82 巣を確認した。1 月調査時より大きく成長したヒナが多数見られるようになった。親鳥がヒナへ給餌する様子も見られた。第六台場ではアオサギも多く集まっているが、繁殖はまだ確認されなかった。また、カワウの卵をカラスが捕食していた。



○出現種(ユリカモメ・カモメ)

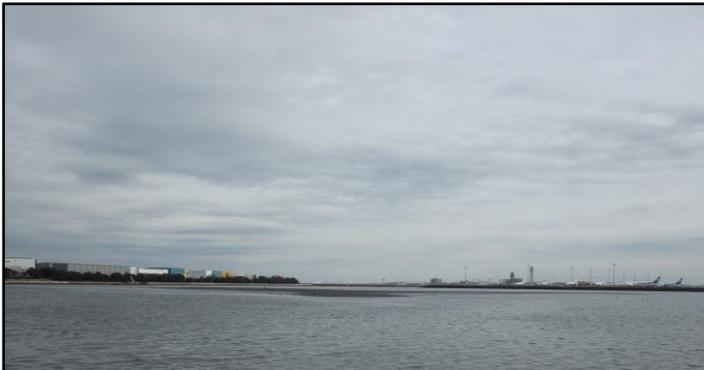
海浜公園の砂浜で休息。ユリカモメの群れに 1 羽のカモメが混ざっていた。ユリカモメ同様、カモメも冬鳥として海岸や河口などに渡来する。ユリカモメよりわずかに大きい。数羽～数十羽の群れでいる事が多いが、今回のように別種のカモメ類に紛れることもある。神奈川県のカモメ類となっている。



<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最干潮時刻だが、干潟の干出範囲は広くはない。



○護岸・海面の状況

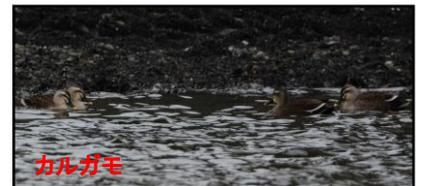
護岸や海上では主に淡水ガモ類(ヒドリガモ・マガモ・カルガモ・オナガガモ・コガモ)が遊泳・休息。海上では主に海ガモ類(キンクロハジロ、ホシハジロ)、オオバンが遊泳していた。※淡水ガモは足が体の中央にあるため、歩くのが上手く、飛び立つ際に助走をしない。一方、海ガモは足が体の後方にあるため、歩くのが下手で飛び立つ際に助走をするなどの違いがある。なお、オオバンはカモではなく、ツル(クイナ)の仲間である。



ヒドリガモ(左メス/右オス)



マガモ(オス)



カルガモ



オナガガモ(左オス/右メス)



コガモ(左 2 羽メス/右 3 羽オス)



オオバン



○出現種(オオタカ)幼鳥

主に北海道～九州の平地～山地の森林で繁殖するが、冬季は全国の農耕地や市街地などでも見られる。ハトやカモなどの鳥類が主食だが、ノウサギやリス、ネズミなどを狩ることもある。伝統の狩猟「鷹狩り」に古くから使われてきた歴史がある、日本の代表的なタカ的一种である。環境省レッドリスト(2018)で準絶滅危惧種(NT)、東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧種 I A 類(GR)に指定されている。



<葛西人工渚>

○調査地点の状況

干潟は広く干出。水たまりがやや多かった。



○干潟の利用状況

ハマシギの群れが干潟で採餌。時折一斉に飛び立ち、調査範囲内で場所を度々移動する。カモメ類が干潟で休息。



○護岸・海面の状況

海上でスズガモ・カンムリカイツブリ等が群れで遊泳。消波ブロック上でカワウ・アオサギ、クロツラヘラサギが休息。



<その他>

○ウミネコの繁殖

平成 30 年 5 月 16 日、6 月 13 日の調査で繁殖を確認した構造物上では、今回ウミネコは確認されなかった。



平成 30 年 5、6 月にウミネコの繁殖を確認した構造物

<トピックス>

○ウミウとカワウ

第六台場において、ウミウ(若鳥)1羽が確認された。東京湾では珍しく、本調査で初めての記録である。ウミウとカワウはとともによく似ているが、下記のような違いがある。

●ウミウ:くちばし基部の黄色い部分(裸出した皮膚)は三角形にとがっている。成鳥の場合、背面に緑色光沢がある。体がカワウよりやや大きい。なお、日本で鵜飼に使われているのは本種である。

●カワウ:くちばし基部の黄色い部分(裸出した皮膚)はとがらず、丸みがある。成鳥の場合、背面に褐色光沢がある。体はウミウよりやや小さい。中国では本種が鵜飼に使われている。

ただし、背面の光沢色は光の角度や加減によって異なって見えることもあるので、注意が必要である。

